

2カ所目の 下宿をつくる

『花風』五周年記念
「この方を入れて差し
上げたいな」と思うこ
とはしばしばでした。
そうは思っても、体
力、金力、機会が得ら
れずに経過してしまし
た。それが二カ所目の
下宿がほしい一つ目の
理由でした。

もう一つの理由は、
定期的に出かける場
所ができた下宿人たち
の家のような
泊まりに行
ける場所

それは、一枚の「売
り家」の張り紙を私が
見たことが始まりで
した。九月のある日、
二号館の前の電信柱に
「六十坪で〇〇〇〇円」
の張り紙が貼られてい
ました。住所を見ると、
二号館の裏手でした。
値段といい、場所とい
い「希望通り」の物件だ
と思いました。何の希
望通りかという、か
ねてからあつたらいい
なと思っていた、二カ
所目の下宿にするのに
でした。

『花風』下宿には「待
機者」がいません。『花
風』下宿は下宿人それ
ぞれの家なので、基本
的には生きてる限り、
退去はあり得ないので
す。それなのに「入居
したいのですが、いつ
入れますか？」と、入居
希望者はたずねます。
それが切なくて、満
室である限りは「満室
です。待機者は置いて
いませんので、またお
た。玄関に出迎えてく

電話をいただいたとき
空いていましたら：」
と、お断りしてしまし
た。そう答えながらも、

「この方を入れて差し
上げたいな」と思うこ
とはしばしばでした。
そうは思っても、体
力、金力、機会が得ら
れずに経過してしまし
た。それが二カ所目の
下宿がほしい一つ目の
理由でした。

もう一つの理由は、
定期的に出かける場
所ができた下宿人たち
の家のような
泊まりに行
ける場所

花風屋繁盛記

連載16

人と人がつながって



NPO法人在宅生活支援
サービスホーム花風

木村美和子理事長

想だつたようで、「本当
のまま置いていって
に暖かいですね。買わ
せていただきたいで
す」と、のたもつてしま
いました。確か、夫は
慎重派のはずだったの
に、思いつきで動く妻
の「お金は何とかなる
だろう」の言葉に、力強
くうなずいてもいまし
た。本当に何とかなつ
た。『花風』五周年記念
パーティーと前後し
て売買契約は交わされ
ました。

縁があつての 出会い

余談ですが、家主は
マンションに住み替え
ることになっていて、
現在使っている家具な
どは処分しなければな
らなくていい。壁にも、
床にも、家具
にも、この初
老の家主の温
かさが染みこ
んでいよう
な気がしまし
た。

当初十一月二十日オ
ープンの予定で、準備



05年11月、
「よろしく」。新しい家族の暮ら
し「花館」でスタートした
第二の下宿「こ

お一人は、二号館で
開催した『花風』コ
ンサートを聴きに來
たことがあつたそう
で、息子さんは「家庭で
介護が難しくなつた
ときには、父をここで
見てもらおうとその
ときに思いました」と、嬉し
いエピソードを語られ
ながら、入居を申し込
まれました。

話を伺って
いくほどに好
感度は、うな
ぎ上り。つい
に、後先も考
えずに「私、こ
の家を買わせ
ていただきます」
と言つてしまひました。
夕方、帰宅した夫に
このことを話すと、先
方が良ければこれから
家を見に行こうとい
うことになりました。今
度は、二人揃つての見
学会。夫も私と同じ感
覚を覚えました。思いがけず
のため設備・備品費は
ほとんどかからず済
ちろんこの時点で入居
希望者はゼロでした。
それでも「縁があれば
出会えるはず」と、いつ
もながらのノンビリモ
ードでした。オープン
予定日になつても入居
者がいなかつたら、オ
ープンを延期すればい
いだけと考え出した十
月末になつて、二件の
入居申し込みがありま
した。

「そこを待つていま
しは、ご本人の妹さんと
姪っ子さんが申し込み
に來ました。妹さんは
入院先から來られたと
いうことで、「大好き
な姉が、笑顔で暮らせ
る場所を探していま
す。そこを見つめるま
では死ねないと思つて
いました」と話されま
した。「どこでもいい
」ではなく、「ここがい
い」と言つてくれる家
族をお持ちの二人の入
居者が決定。本日に「
縁があつて出会えた」
を噛みしめさせていた
だきました。

買わせていた だきました

早速、電話の後に「張
り紙の家」を訪ねまし
た。玄関に出迎えてく